

土木學會誌

JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

1995.3 Vol.80

読者の皆様へ 阪神大震災

兵庫県南部地震による被災地の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。また、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

1月17日5時46分頃に発生した淡路島北部を震源とする兵庫県南部地震は、兵庫県および周辺地域に甚大な被害をもたらしました。道路、鉄道、港湾、上下水道、電気、ガスなどの社会基盤施設に多数の破壊や長期間供用停止となる被害が生じました。これまでの報道によれば、死者は5300人を超え、建物の損壊は約11万棟、避難生活を余儀なくされている方は約30万人と伝えられており、1923年の関東大震災に次ぐ、戦後最大の大震災となりました。

土木学会誌編集委員会ではこの事態を深刻かつ真剣に受けとめ、直ちに特別体制で臨むこととし、まず、2月号では速報として被害の概要を写真により掲載しました。この3月号からは順次、土木学会震災調査団の報告および特集記事を掲載することにしました。特集では

1. 地震の特性
2. 地震被害の特性
3. 構造物の耐震性
4. インフラシステム機能の信頼性
5. 社会経済システムと震災
6. 復興計画・防災計画

に大別し、各項目について数名の専門家に執筆を依頼し、被害の原因、問題点、教訓、復旧復興への提言、今後の耐震・防災のあり方等について述べていただくことを企画しています。これらは速報性に重きを置くものですが、豊富な専門的知識と経験に基づく有益なご意見がいただければと思います。順不同で入稿したのものから随時掲載する予定です。

また、関係機関や研究者による詳細な検討結果については、今後の推移を見ながら別途企画を検討する予定です。本誌の企画に対し読者の皆様からのご意見をお待ちしています。

なお、速報による編集の組み替えのため、2月号より出版日が多少乱れていますが、ご了承ください。

(会誌編集委員会委員長 角田 興史雄)